

道具を超えた、心の相棒

文房具新聞

2025年 8月
山口 稟翔

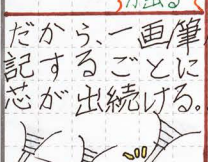


世界を変える一本

僕は、文房具のことを「道具」ではなく、「心の相棒」と思っています。それは、一番そばにあるものだからです。学校、宿題、そしてこの新聞も。文房具への考えは「そしてこの瞬間も。文房具へ」で伝えたいです。文房具の魅力やワクワク感が伝わるように。

気に入っている心の相棒は、ペンというシャープペンです。オレンズATという芯が打れない機構を搭載しています。さらに、最初のワンノックだけであとは自動で芯が出てくるので、書くという集中できます。金属の高級感あふれるグリップにふれるだけで、やる気がでます。手にするだけで、やがて現実世界が変化する。筆運びが実現され、まさに一変する。文房具が変わるだけで世界が変わる。

オレンズAT 自動芯出しの秘密



今じゃ信じられない！ 文房具の歴史

鉛筆が一本数千万円の時代！ イギリスで黒鉛が1564年に発見され、最初は木に黒鉛の棒を挟んで使っていた。1660年代に広まった。1775年、鉛の棒を挟んで使う特別な筆記具だった。1775年、黒鉛の粉と粘土を混ぜて焼く方法を発明し、書きやすさが向上。日本には江戸時代末期に輸入され、明治時代に国内生産が始まった。

4000年前のエジプトから発見！

古代エジプトやメソポタミアでは、木や石に目を盛りを刻んで、建物や壁画の寸法を正確に測ったり、直線を引くのに定規を利用した。14～17世紀、ヨーロッパでは木製定規が発展した。20世紀には、プラスチック製の定規も登場している。現在、イラク南部にあった古代文明地帯。

編集後記

僕はこの新聞を作るなかで、文房具にはただ使うだけでなく、不思議な力があることが分かりました。何度も何度も、じけそうになったときに、文房具をさわただけで元気が湧いたり、使うだけで悩んでいたことが一気に解決したからです。これから、一つひとつの文房具に意識を向け、長く大切に使い続けます。

鉛筆が一本数千万円の時代！

イギリスで黒鉛が1564年に発見され、最初は木に黒鉛の棒を挟んで使っていた。1660年代に広まった。1775年、鉛の棒を挟んで使う特別な筆記具だった。1775年、黒鉛の粉と粘土を混ぜて焼く方法を発明し、書きやすさが向上。日本には江戸時代末期に輸入され、明治時代に国内生産が始まった。

4000年前のエジプトから発見！

古代エジプトやメソポタミアでは、木や石に目を盛りを刻んで、建物や壁画の寸法を正確に測ったり、直線を引くのに定規を利用した。14～17世紀、ヨーロッパでは木製定規が発展した。20世紀には、プラスチック製の定規も登場している。現在、イラク南部にあった古代文明地帯。



Q.今と昔では文房具のどんなところが変わったか。
A.私が6年生のときに、シャープペンが世の中に出てきたね。その前まではロケット鉛筆のような商品が出ていたよ。今では頑丈な定規も、当時はすぐに割れてしまった。50年前に比べれば、便利に使いやすくなっているよ。



取り扱っているのか。品数は19万個だよ。んな工夫や秘訣があるのか。

Q.何種類の商品を
A.種類は3万、商
Q.86年続けるためにど
のか。

A.環境の変化についていくこと。遅れちゃダメ。ときには先にいくことも大切な。

Q.今後どんな文房具店でありたいか。

A.お客さんがのぞむ物があって、満足できる時代だから今は大変な時期。それでも、創業100年に向かって、新たなサービスも増やしていきたいと考えているよ。

86年続く文房具店和歌人に取材